# 座談会　署長が語る　夏の犯罪

## 痴漢!! あなたを襲う　やめよう女性の一人歩き

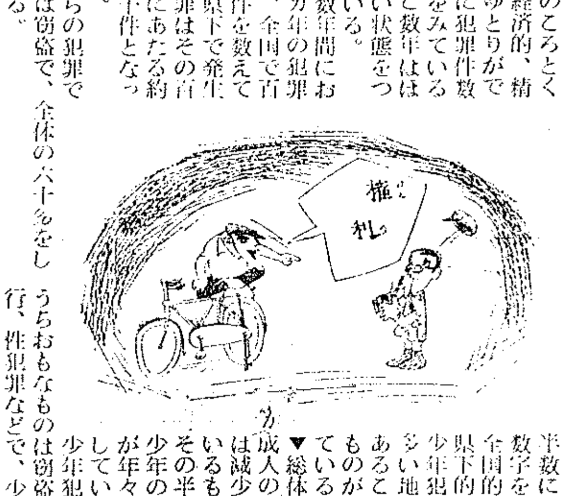
☆……"夏は犯罪の季節"いやが上にも照りつける太陽の下、人人の心はもの狂わしく、狂暴性をむきだし、なんとなくけだるい心身をもてあましつつ、ふとした心のゆるみから罪を犯したり、犯されたりする。犯罪は起るべくして起る場合が多いのだ。とくに少年の性的犯罪や、あやまちは、われわれ成人たちにとって、不愉快なものはない。……

そこでこれら、夏の犯罪の温室をいかにすべきか、その道のベテランに語ってもらった。……★

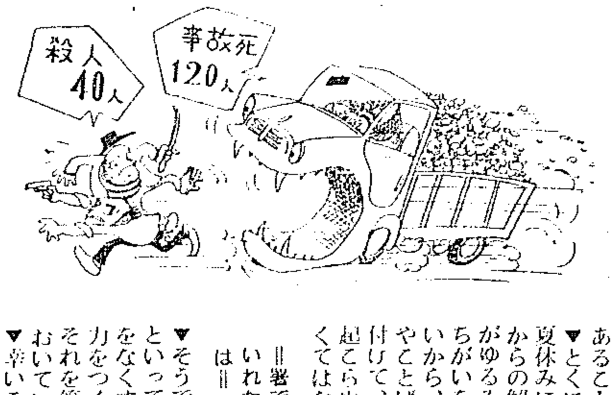
| 語る人 | |
|---|---|
| 南国署長 | 森田　茂 |
| 同　次長 | 高橋　良夫 |
| 同刑事課長 | 沢田　勇 |
| 広報委員 | 委員長ほか |

まずこの頃の犯罪の傾向はどうか。

▼全国的にもそうだが、敗戦直後の混乱期のころとくらべ、経済的、精神的なゆとりができ次第に犯罪件数は減少をみているが、ここ数年はほぼ横ばい状態をつづけている。▼ここ数年間における一カ年の犯罪件数は、全国で百五十万件を数えており、県下で発生した犯罪はその百分の一にあたる約一万五千件となっている。▼これらの犯罪で多いのは窃盗で、全体の六十%をしめている。また、全犯罪の四十%は少年による犯罪であって、その比率は県下的にも同じであるが、南国署の管内における少年犯罪は四十五%、全犯罪の半数に近い数字を占め、全国的にも県下的にも少年犯罪の多い地域であることをものがたっている。▼総体的に成人の犯罪は減少しているものの、その半面、少年の犯罪が年々増加している。少年犯罪のうちおもなものは窃盗、暴行、性犯罪などで、少年だからといって安心できない。むかしの子供といまの子供とは質的に相当違っているといえる。



▼その例として署員からこんな報告があった。それは、後免東町で無灯火の中学生をみつけ停車を命じたが停まらないので、自転車をおさえたところ、「オンシャーおれの自転車になぜさわるか」とくってかかり、あげくの果ては、「オンシニなぜ名前を名乗らにゃいかんか、オンシニいう名前はもちよらん」とか約十分間押し問答のすえ、君が危ぶないから灯をつけて乗っていなければいかんと注意するのだ、ということで灯をつけて帰へしたというもので、とうとう学校も住所も名前も明かさなかったという。▼本当にびっくりするような子供だ。これは大人も顔負けだネ。どうも自分というものを何事によらず強よく打ち出したがる悪い面が、いまの子供たちには多いように思う。



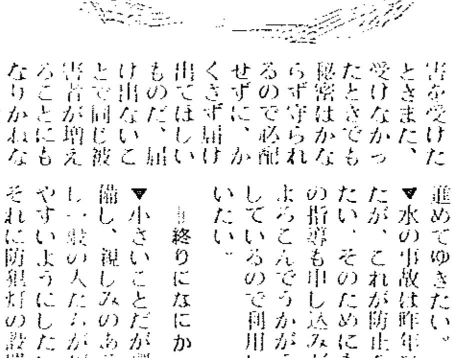

▼子供のしつけができていないではなかろうか、両親が働きにでて子供をかえりみる余裕がないとか、放任している家庭の子供たちにまちがいを起こすことが多い。▼いちがいに家庭が貧しいからということが原因ではなく、中流や、上流の子供たちに罪をおかす実例の多いのをみても、家庭のしつけになにか欠けたところがあることがわかる。▼とくに児童生徒は夏休みになると学校からの解放感から気がゆるみやすく、まちがいを起こしやすいから、日常の態度やことばによく気を付けて、まちがいの起こらぬようにしなくてはならない。

＝署でこれに力をいれたいという面は＝

▼そうですネ。なんといっても少年犯罪をなくすることに全力をつくしたいし、それを第一の目標においている。▼幸いこん度ママポリスを一名配置されることになっており、少年補導の強化をはかることにしている。▼南国市における少年犯罪は年五百件程度で、一カ月四十件、それも六、七、八月頃には多くなり五十件余りの発生をみている。また、交通の取締りの強化も一つの課題だ。▼交通といえば交通戦争とまでいわれ、死亡者とけがの人の数は全国で四十五万人、県下で年百二十人の人たちが死亡し、千八百人がけがをうけている。しかし、殺人で殺された人は県下で年三、四十人で交通事故による死亡、けが人は殺人、傷害の数より多い。これからいっても交通戦争はなくさなければ、……▼一般の人は交通事故を軽くみているようだが、なかなかそんなものではない。一方、南国の管内での傷害事件は少なく、殺人もここ数年影をひそめている。ところで、署の犯人検挙率は県下で一番高く、事件発生の件数との比が九十八%である。▼このように成績のよいのは、むかしからの伝統もあるが、署員のチームワークのよい結果ではないかと思っている。

＝これから犯罪の多い季節だが一般の心構えといったものは……

▼夏は急激に性犯罪が多くなるので夜間女性の一人歩きをしないことだ。それに服装にも気を付けなければならない。▼すきのある、欲情をそそるような服装や、すけてみえる、華美な服装はしないことで、ことさらに肉をみせつけないことが大切である。▼私し一人は大丈夫だという安易感や、すぐそこだからという安心した一人歩きは禁物だネ。もし襲われた場合、おとなしくいいなりにならず、抵抗することにより防げる場合が多い。▼あるところで、六十五才のおばあさんが、二人組に襲われ徹底的に抵抗し危難をまのがれたということもある、また、大声でさわぎたてることも大事だ。▼しかし、これも犯人の心の持ち方にもよるので、命をかけてまで抵抗するのは考えものだが、いよいよとなればなんらかの方法を考えることだ。▼例えば相手を安心させるようにみせかけて逃げ出すきっかけをつくるとか、相手のいいなりになるとか、いざというとき急所（睾丸など）に打撃をあたえるのも一つの方法である。▼もし、被害を受けたときまた、受けなかったときでも秘密はかならず守られるので心配せずに、かくさず届け出てほしいものだ、届け出ないことで同じ被害者が増えることにもなりかねない」強かんによる罪は重く五ー七年の懲役刑となる。



「ひとりで歩かないこと」

▼よくスクーターや車に乗せてもらう婦人がいるが、見知らぬ男の車には乗らないことである。それが被害を受ける原因となることもあるので、充分気を付けるべきだ。▼また農繁期には空巣や、しのび込みが増えるので戸締り、留守番など充分気をくばってもらいたい。

＝ほかになにか署として計画しているものは＝

▼この地区では自転車の盗難が多い、これは跡仕末の悪いところにも問題がある、夜間外へ置き忘れてあるのをたびたびみかけ注意をしている。▼防犯の体制を強化するため各部落へ進出し、防犯の映画や、話し合いを行い、子供を水難から守ることや、夏の犯罪をなくするよう部落の人たちと話し合を進めてゆきたい。▼水の事故は昨年二件あったが、これが防止をはかりたい、そのためにも救急法の指導も申し込みがあればよろこんでうかがうことにしているので利用してもらいたい。

＝終りになにか＝

▼小さいことだが環境を整備し、親しみのある警察として一般の人たちが相談にきやすいようにしたい。▼それに防犯灯の設置をすすめてゆきたいものだ。▼どんな小さな犯罪でも、暴力行為でも、また、自分が被害者でなくても、迷惑していることを聞いたり、見たりしたときは、必ず届け出てほしいものだ。▼南国署は、伝統のある署であるから、その格式ある署へ赴任できたことを誇りとし、会心の仕事をするため全力をあげてゆきたい。

＝それではこの辺で……

---

## 科学　こんなことができかけている

人間はいままでいろんなことを発見し、また発明してきた。私はそのなかでも最もすばらしいものは、原子力の利用と宇宙旅行だと思う。

原子力電池は小さな出力ではあるが、できているこれまで一回も充電せずに電気を流しつづけることができる。放射線を利用して壁または天上全部を光らすこともでき初めた、これは電気が全然不要で家がこわれるまで光りつづける。水爆の原理を利用して電気を作れば、電気は湯水の如く使えるようになる。これも日に日に研究が進んでいる。ロケットが月や他の天体に簡単に行けだすと、地球上にないどんなに便利なものが発見できるかもしれない。金星には石油の海があると書いてあった本を読んだことがある。現在超高圧力をかけて種々の物質を作り変えることが研究されている。金銀鉄も地球内部で作られたものである。だから地球内部のような高圧をかけると石が金になるかもしれないという理くつである。現に火薬の爆発力を利用して高圧力を作りある種のものは作り変えられ初めた。原子力ロケットもできるだろう、そうなれば、火星、金星、土星などから、金銀鉄ダイヤモンドなど地球にふんだんに取ってくるようになるだろう。

人工衛星の軌道にアルミの粉末などのようなものを多くまいて地球の北極、南極に太陽の光線を反射さして暖い土地にして人間が住めるようになる研究も進められている。生命の神秘も間もなく開かれるだろうそうすれば、生命はぐんと長く延びることがわかるだろう。

とにかくわれわれはすばらしい夜明けに生れている一日でも長生きして、このすばらしい世に住みたいものである。

鉄聖（ロケット）

---

## 随想リレー

シベリヤから無事生還した、市民保健衛生課長から託されたバトンには、これまた軍隊の飯を食らった、軍の勇者に引きつがれた。さてその人は

### 人の世の中

この間、上京中梅雨の要務を終えて、ひさし振りに武蔵野の友を訪ねた。まえもって連絡してあったので、五人の旧友が集っていた。お互が顔を見合して自分の年のことは忘れ（僕が額が禿上っているように）相手の変っているのに驚き合った。想い起せばもうかれこれ二十年ぐらい前一階級と立場はそれぞれ異っていたが一戦争のさ中幾山河越えて親兄弟以上に苦楽を共に生きてきたお互であり、終生すぎ越し想い出が走馬灯のように脳裏を去来することであろう。二十年来の話の中で、同窓生三人の現在に至るまでの過程をちょっと紹介するとA君は武蔵野市の農家で終戦後家の周囲約一〇〇反の土地をほとんど買収され、わずかに残った宅地と山が戦後の急激な発展に伴い地価が暴騰し、あたかも市役所東南の状態を拡大したような姿となり、心ならずも土地を整理し、燃料店を経営しているが、室内を受けた庭園の敷坪だけでも一、〇〇〇坪ぐらいあるだろうか。価格に換算すれば坪に乗ずることの数万円である、僕等のような庶民にはちょっとぴんとこない"集った旧友の羨望の的であり、世の中が不公平の声しきり。

B君は関東の大空襲で一瞬にして親兄弟を失い、家は全焼し、総領の責任として漸く妹二人を嫁がし、身軽くなって積年の努力が実を結び出版会社設立寸前に仲間に資金を持逃げされ、振出しに返り人の世の中をかみしめながら寸暇をおしんで大都会の灰色の中で再起を期している。C君も空襲で家を失い流転のあと、国鉄の通信関係に入り、最近は神奈川県警の技官として麻薬密輸入など各種情報を超短波を使用してもりもり張切っているようである。が、未だネクタイ東の四音や雑音中の傍受技術などむつかしいとのこと。帰宅しては自分の無線機で国内各地の愛好者と自由交信を楽しんでいる、仲間に入らんかというが考えてみても面白い。むかしのことに花が咲いて、今となれば楽しい想い出はかりだ。せめて生残った責任として、自分のことで戦もないが、それぞれの立場でできる限り善行を実とし、好意と友情を深めつつ、みんなのためになるかどうかをかみしめながら、人の世に生きるべきだという意見の結論を受取った。

列車の窓から農耕の状態を眺めても、長い梅雨で田の畦を切るように一きれ、一きれ神武のむかしさながらの耕し方をしている地方あり、黒い牛でのたりのたりと、ひれをすする耕している地方あり、田植も男女混成で霧の横ッ式あり、前へ前へと植えている地方あり、の女中さんにしても呼称はお手伝さんであり、時間制で、いたり、つくせりのつもりであるが、女中さんのみならず都市周辺の中小企業者は人手不足で困っている。旅館に泊っても寝具の取扱いは最近大抵男がやっている。もともと哺乳のたぐいである人間は女性優位が本質であろうか。僕も心秘かに母の日ぐらいは炊事でもと心の準備をすることが移り変る人の世の中であろうかとも思う。

次回は関東大震災生れの同年兵田岡市民課長さんにお願いします。

×　×

### 筆者のよこがお

吉本太志男（39）（市建設課長）

大正12年9月 稲生の産。陸軍航空通信学校卒、20年稲生村書記、21年日章村書記、26年助役、31年香長村第二助役兼建設課長を経て現職となる。

ご養子族の一員、酔うほどに飲むほどにいささかほどよく酒をたのしむ、石でこい駒でこい趣味は広い。酒遊伝も豊富、けがの方は本人におききねがおうか。

妻・信意（37）長男・清志（15）長女・真理（13）二女・弥生（11）養父・清吉（68）養母・留寿（64）の六人